

令和7年12月31日

スタッフ各位

株式会社 徳  
ノリックス有限会社・有限会社和公  
代表取締役 鶩岡和徳

前略、今月も業務に専心いただきありがとうございます。気がつけば年末を迎えます。この一年、皆さまがそれぞれの持ち場で責務を果たし、会社を支えてくださったことに心より感謝申し上げます。

さて、私には以前から大切にしている言葉があります。それは「一隅を照らす」という言葉です。簡単に言えば、「自分の置かれた場所で、いま目の前の仕事にベストを尽くす」という意味です。先日、その言葉を思い出させてくれる出来事がありました。友人の娘さんは飽き性で、どの仕事も長く続かず採用してくれる会社も減ってしまい、派遣で様々な仕事をしていました。そんな中、ある日スーパーのレジの仕事を任せられました。

最初は単調で退屈に思えたそうですが、毎日レジを打つうちに自然と操作が上達し、「まるでピアニストになったみたい」と感じるほどになったそうです。上司や周りから褒められることも増え、心に余裕が生まれ、お客様に一言二言話しかけるようになりました。その小さな会話が彼女自身の楽しみとなり、「明日も頑張ろう」という気持ちにつながっていました。

するとある日、彼女のレジだけ長い列ができていました。係の方が「どうぞ他のレジへ」と促すと、お客様の一人が言いました。「私は、このレジの女性と話すのが楽しみで来ているのですよ。」その声に続いて、周囲のお客様からも「私もそうです」「自分も同じです」という声が上がりいました。

その瞬間、彼女は嬉しさのあまり涙があふれたそうです。その後、彼女はそのスーパーの正社員となり、今では主任として後輩の指導にあたっています。決してニュースにはなりませんが、「自分の置かれた場所で努力し輝く」ということを体現した出来事です。

私は、「一隅を照らす」とはまさにこういうことだと思っています。どんな仕事にも意味があり、誰かの心を温かく照らす力があります。そして、その光は必ず自分自身の人生も照らします。

「私たちはお客様のために常に新しいことに挑戦し、食生活に新たな価値を創造しつづけます。」  
すべては自分のために。  
すべてはお客様のために。  
すべては会社のために。  
すべては社会のために。

引き続き来年も一緒に頑張りましょう。

草々